

トキョーの発展 と鉄道

考古学から近現代の扉をあけてみよう！

いまだ江戸の面影が残る明治5年（1872）秋、文明開化の夢をのせて一台の蒸気機関車が汽笛を鳴らしプラットフォームを滑り出しました。当時まだ見ぬ鉄道は「火輪車（かりんしゃ）」とか「陸蒸気（おかじょうき）」とか呼ばれていました。この最初の鉄道の姿を新橋ステーションや高輪築堤などの発掘から見てみましょう。その後、鉄道を基軸として目覚ましく発展する東京の様子を物語る"モノ"を探りましょう！

講師 **斉藤 進**
(元 東京都埋蔵文化財センター職員)

10月25日 土
13:30 - 15:30

【会場】東京都立埋蔵文化財調査センター
【定員】90名 ※要事前申込。応募者多数の場合、抽選
【参加費】無料

申込方法

10月20日 月 必着

【Web 申込】

当センターホームページの「イベント・教室」から「企画展示関連講演会 (1)」を開き、申込フォームよりお申込みください。右のQRコードからもアクセス可能です。



【お問い合わせ】

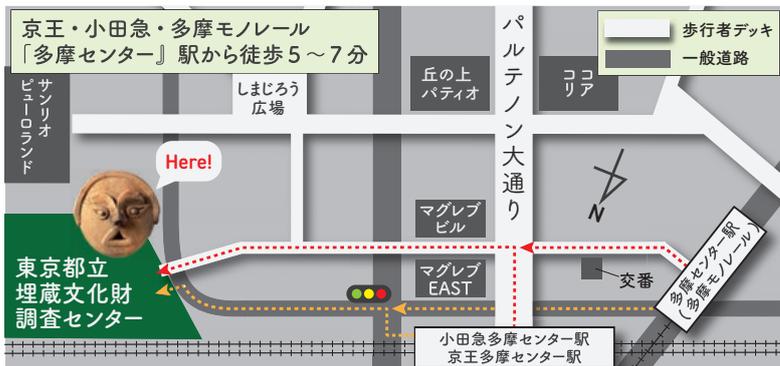
東京都埋蔵文化財センター
〒206-0033 東京都多摩市落合 1-14-2
電話 042-373-5296 広報学芸担当 (平日のみ 9:00 ~ 17:00)
<https://www.tomaibun.jp/>



旧新橋停車場 機関車用転車台周辺の遺構群



旧新橋停車場駅舎



※発熱や風邪の症状など体調がすぐれない方は来館をお控えください。
※諸事情によりイベントが急遽延期または中止となる場合がございます。その際は当センターウェブサイト等によりお知らせいたします。
※記録・広報活動への利用のため、イベントの様相を撮影いたします。撮影した写真の公開時には、ぼかし処理など顔が判別できないような適宜の処理を行います。ご承知おきの上、お申し込みください。